

人権作文コンテストで最優秀賞の福井稜馬さん(右)と優秀賞の三上悠子さん(左)



中学生人権作文コン

福井さん(函館聾学校2年) 最優秀

【北斗】第44回全国中学生人権作文コンテスト函館地方大会と、本年度の小学生・中学生人権ポスターコンテストの表彰式が6日、七重浜市民センターで開かれ、入賞した児童生徒に表彰状が贈られた。

優秀賞に三上さん

作文コンテストは法務省と全国人権擁護委員連合会の主催。函館地方法務局管内は19校572点の応募があり、表彰式では優秀賞以上の8人に賞状が手渡された。

最優秀賞は函館聾学校2年の福井稜馬さん(13)の「コンテンツの力」。福井さんは作文の中で、耳の不自由な女の子が登場するアニメ映画「聲の形」に触れ、自分がいじめられるような経験がなかったのは、このような映画などのおかげなのではないかと、誰かを尊重することの大切さや、言葉で直接伝えるよりも人の心に残るコンテンツの力について語った。福井さんは受賞に「予想外でした。うれしかった」と笑顔。表彰式では作文の全文を手話をつけて朗読し「緊張しました」と話していた。(福井さんの作文は、4日の本紙に全文を掲載)

また、函館聾学校2年の三上悠づ希さん(14)も「無意識の差別」と題した作文で優秀賞に。障害者への差別について「まさか選ばれるとは思わなかった」と受賞を喜んでいました。

函館聾学校では、聴覚に障害のある生徒の言語力を伸ばすため、作文指導に力を入れており、飯田広行校長は2人の受賞に「頑張りが社会から認められてうれしい」と話していた。

ポスターコンテストは函館地方方法務局と函館人権擁護委員連合会の主

ポスターコンも表彰 函館、七飯、北斗で入賞作展示



催。いじめや障害のある人に関する問題などをテーマに人権意識を高める作品を募り、渡島・檜山管内の小学4年生以上167人と中学生80人から応募があった。

函館市電車内、16日23日まで五稜郭タワーアトリウム、2月9日16日まで七飯町文化センター、2月18日25日まで北斗市公民館で展示される。(内田晶子)

〈作文のその他の優秀賞〉(敬称略)

高橋ひかり(せたな・北檜山中3年)、有倉花(北斗・上磯中2年)、岡川志穂(七飯中1年)、杉浦太一(道教大付属中2年)、工藤るな(奥尻中3年)、野口未愛(北斗・上磯中3年)、佐藤花夏(七飯中2年)、古館ひかり(厚沢部中3年)

〈ポスターの最優秀賞〉(同)

森陽羽(上ノ国・河北小4年)、山田優衣(寿都小5年)、中里心々優(函館・中央小6年)、中野麗(江差北中1年)、国井理(七飯中2年)、匿名(上ノ国中3年)